令和７年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
成果報告書
①（基礎データ・公演事業の実績値等）

地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	
団体名	公益財団法人キラリ財団
施設名	富士見市民文化会館キラリふじみ
内定額	11,004　（千円）

（1）令和7年度　助成対象事業一覧

※実績報告書様式13－2(2)事業内容 から転記してください。
　複数の事業類型（公演・人材・普及）が助成対象となっている場合は、それぞれすべて転記してください。

事業番号	事　業　名	実施日程	実施会場
公-01	キラリ☆かげき団第19回公演　オペラ『森は生きている』	令和7年 11月29日（土）・30日（日）	マルチホール
公-02	ハーツウインズ・コンサート	令和7年 10月5日（日）	メインホール
公-03	キラリ☆ふじみ狂言公演　万作の会	令和7年 11月14日（金）	メインホール
公-04	キラリ☆風流寄席	令和7年 6月21日（土）	マルチホール
公-05	二兎社公演49『狩場の悲劇』	令和7年 11月1日（土）	メインホール
公-06	劇場連携企画vol.1　シアターブリックfromデンマーク『わたしのねがい』×カンパニー・ソン・ドゥ・トワルfromフランス『さあ！』2二本立て公演	令和7年 7月26日（土）・8月5日（火）	展示・会議室
公-07	劇場連携企画vol.2『小さな王子さま』	令和7年 9月23日（火・祝）	メインホール
普-01	宮内康乃新芸術監督によるアーティスト・コレクティブの活動	令和7年 6月～10月	展示・会議室 マルチホール
普-02	舞台芸術体験プログラム　アウトリーチ・ワークショップ	令和7年9月～ 令和8年2月	市内小学校
普-03	こどもステーション☆キラリ2025	令和7年 5月～11月	展示・会議室 スタジオAほか
普-04	きになる劇場、はじめの一歩	令和7年 6/21、8/19-21	マルチホール 展示・会議室
普-05	サーカス・バザール	令和7年 7/12・13	全館
普-06	第八回　ふじみ大地の収穫祭	令和7年 11/23	全館

（2）〔基礎データ〕

※ 交付申請書から転記してください。令和7年度について見込み等の暫定値だったものは、確定した数値を記入してください。

※ 実施中止分を含まない実績値を記入してください。

【1. 事業本数】

項　　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
年間事業本数（※1）	主催事業	29	29	18
	公演事業	12	12	7
	（内、本助成対象事業本数）	12	10	7
	人材養成事業	0	0	0
	（内、本助成対象事業本数）			
	普及啓発事業	8	8	8
	（内、本助成対象事業本数）	7	7	6
	共生社会事業			
	（内、本助成対象事業本数）			
	その他　内容：　市民参加・展示事業等	9	9	3

※1　事業の延べ実施回数ではなく、事業本数を記入してください。

【2. 貸館日数】

項　　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
貸館日数	ホールごとの貸館日数	646	646	440
	ホール名：メインホール　　座席数：802	323	323	220
	ホール名：マルチホール　　座席数：255	323	323	220
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			

【3. 施設利用者数（事業利用者数）・開館日数・利用可能日数・利用日数・利用率】

項　　目			令和5年度	令和6年度	令和7年度
施設利用者数（※2）	主催事業入場者・参加者数		14,785	13,912	10,555
		公演事業	3,574	3,927	2,812
		人材養成事業	0	0	0
		普及啓発事業	7,348	5,897	3,834
		共生社会事業			
		その他　内容：　市民交流・支援事業等	3,863	4,088	3,909
	貸館事業入場者・参加者数		36,454	49,490	32,178
	その他　内容：　共催事業等		15,972	8,602	8,958
	計		67,211	72,004	51,691
開館日数			323	323	220
施設の利用可能日数　（＝365－（保守点検日数+休館日数））			323	323	220
施設の利用日数			241	238	175
施設の利用率(%)　（＝利用日数/利用可能日数）			74.6%	73.7%	79.5%

備考	

※2　実演芸術の公演等を鑑賞する者、ワークショップ等に参加する者、その他の劇場・音楽堂等の事業を利用する者の延べ人数を記入してください。
劇場・音楽堂等のスタッフや、併設施設（美術館、図書館等）のみへの入場者、事業関係者（出演者、指導者、スタッフ等）は除きます。
レジデントカンパニー・アーティストの稽古利用等の場合は「その他」に記入してください。

【4. 公演事業データ】

※ 交付申請書から転記してください。令和7年度について見込み等の暫定値だったものは、確定した数値を記入してください。

※ 実施中止分を含まない実績値を記入してください。

事業種別		事業本数	公演回数	入場者・参加者数	事業本数内訳						
					演劇	音楽	舞踊	伝統芸能	演芸	総合（※3）	その他
令和5年度	主催公演（※1）	12	18	3,574	4	4	2	2			
	共催・提携公演（※2）	8	8	15,972		4	1			1	2
	貸館公演	230	230	47,000	5	125	1		1		98
	計	250	256	66,546							
令和6年度	主催公演（※1）	11	13	3,529	5	2	1	2		1	
	共催・提携公演（※2）	8	13	8,602		4	1				3
	貸館公演	230	230	47,000	5	125	1		1		98
	計	249	256	59,131							
令和7年度	主催公演（※1）	8	10	2,812	2	2	1	2		1	
	共催・提携公演（※2）	5	9	8,958		4				1	
	貸館公演	180	180	32,178	5	103	1			1	70
	計	193	199	43,948							

※1 名義主催は除きます。
※2 名義共催を含みます。
※3 「総合」には、フェスティバル等における事業数を記入してください。

（3）各公演事業における実績値 及び 評価項目「創造性・企画性」に関する評価指標・目標（値）・実績（値）

・公演事業について、助成対象事業ごとに目標（値）と実績（値）を記入してください。
・入場者数・入場者率（目標値）は**「交付申請書」**から転記してください。
・有料入場者数・有料入場者率（目標値）および評価指標・目標（値）は**「評価補助シート」**から転記してください。

※有料入場者率（%）の計算方法＝**有料入場者数÷公演の設定席数（実績値）合計×100**

事業番号	事業名		入場者数	入場者率	評価指標	目標（値）	実績（値）
公-01	キラリ☆かげき団第19回公演　オペラ『森は生きている』	目標値	420	82.4%	来場者へのアンケート調査による「満足度」評価	アンケート調査項目の5段階評価で上位2段階（「大変満足」「満足」）と回答した人が70%以上	アンケート調査全体の回答数　216名 当該アンケート項目の回答数　214名 80.8%（173名）
		実績値	419	95.2%	当館のシリーズ公演の来場者へのアンケート調査による「リピーター率」評価	アンケート項目の「当該公演への来場回数」で、「2回以上」と回答した人が70%以上	アンケート調査全体の回答数　216名 当該アンケート項目の回答数　117名 41.0%（48名）
公-02	ハーツウインズ・コンサート	目標値	360	57.3%	来場者へのアンケート調査による「満足度」評価	アンケート調査項目の5段階評価で上位2段階（「大変満足」「満足」）と回答した人が70%以上	アンケート調査全体の回答数　266名 当該アンケート項目の回答数　264名 87.5%（231名）
		実績値	694	90.8%	来場者へのアンケート調査による「新規来場者数」評価	アンケート項目の「当館主催公演への来場回数」で、「初めて」と回答した人が50%以上	アンケート調査全体の回答数　266名 当該アンケート項目の回答数　265名 42.3%（112名）
公-03	キラリ☆ふじみ狂言公演　万作の会	目標値	520	64.8%	来場者へのアンケート調査による「満足度」評価	アンケート調査項目の5段階評価で上位2段階（「大変満足」「満足」）と回答した人が70%以上	アンケート調査全体の回答数　205名 当該アンケート項目の回答数　199名 78.9%（157名）
		実績値	510	85.0%	当館のシリーズ公演の来場者へのアンケート調査による「リピーター率」評価	アンケート項目の「当該公演への来場回数」で、「2回以上」と回答した人が70%以上	アンケート調査全体の回答数　205名 当該アンケート項目の回答数　103名 46.6%（48名）
公-04	キラリ☆風流寄席	目標値	220	86.3%	来場者へのアンケート調査による「満足度」評価	アンケート調査項目の5段階評価で上位2段階（「大変満足」「満足」）と回答した人が70%以上	アンケート調査全体の回答数　48名 当該アンケート項目の回答数　48名 77.1%（37名）
		実績値	156	62.4%	当館のシリーズ公演の来場者へのアンケート調査による「リピーター率」評価	アンケート項目の「当該公演への来場回数」で、「2回以上」と回答した人が70%以上	アンケート調査全体の回答数　48名 当該アンケート項目の回答数　48名 66.7%（32名）
公-05	二兎社公演49『狩場の悲劇』	目標値	440	73.3%	来場者へのアンケート調査による「満足度」評価	アンケート調査項目の5段階評価で上位2段階（「大変満足」「満足」）と回答した人が70%以上	アンケート調査全体の回答数　201名 当該アンケート項目の回答数　201名 83.0%（167名）
		実績値	679	88.8%	当館のシリーズ公演の来場者へのアンケート調査による「リピーター率」評価	アンケート項目の「当該公演への来場回数」で、「2回以上」と回答した人が70%以上	アンケート調査全体の回答数　201名 当該アンケート項目の回答数　201名 65.7%（132名）
公-06	劇場連携企画vol.1　シアターブリックfromデンマーク『わたしのねがい』×カンパニー・ソン・ドゥ・トワルfromフランス『さあ！』2ニ本立て公演	目標値	330	100.0%	来場者へのアンケート調査による「満足度」評価	アンケート調査項目の5段階評価で上位2段階（「大変満足」「満足」）と回答した人が70%以上	アンケート調査全体の回答数　26名 当該アンケート項目の回答数　25名 72.0%（18名）
		実績値	106	50.4%	来場者へのアンケート調査による「新規来場者数」評価	アンケート項目の「当館主催公演への来場回数」で、「初めて」と回答した人が50%以上	アンケート調査全体の回答数　26名 当該アンケート項目の回答数　25名 28.0%（7名）
公-07	劇場連携企画vol.2『小さな王子さま』	目標値	320	53.3%	来場者へのアンケート調査による「満足度」評価	アンケート調査項目の5段階評価で上位2段階（「大変満足」「満足」）と回答した人が70%以上	アンケート調査全体の回答数　80名 当該アンケート項目の回答数　80名 80.1%（64名）
		実績値	248	42.7%	来場者へのアンケート調査による「新規来場者数」評価	アンケート項目の「当館主催公演への来場回数」で、「初めて」と回答した人が50%以上	アンケート調査全体の回答数　80名 当該アンケート項目の回答数　80名 33.8%（27名）

令和７年度

劇場・音楽堂等機能強化推進事業

成果報告書

②（評価）

地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	
団体名	公益財団法人キラリ財団
施設名	富士見市民文化会館キラリふじみ
内定額	11,004　（千円）

（1）各公演事業の自己評価

「成果報告書①（基礎データ・公演事業の実績値等）」に記載の入場者率・評価指標・実績（値）等に言及しつつ、自己評価と自己評定（※1）を記入してください。

（※1）…S～D で記入してください。

※太枠内に記入してください

事業番号	事業名	自己評価
公-01	キラリ☆かげき団第 19 回公演　オペラ『森は生きている』	有料入場者率を高い割合で達成できたことが最も大きな成果である。また、来場者アンケート結果において、目標としていた観客満足度を上回る成果をあげた。また、リピーター率 41%（初めて 48.7%）と目標には届かなかったが、初めて鑑賞した観客が毎年のかげき団公演を楽しみにする根強いファン層となるように取り組む。
公-02	ハーツウインズ・コンサート	有料者含め入場者数・率といずれも目標を大きく上回る成果を上げた。来場者アンケート結果において、目標としていた観客満足度を大きく上回った。また、新規来場者数は目標に僅かに届かなかったが、映画音楽を中心に構成した本シリーズの新たなコンセプトに対し一定数の反響があったことは次回への手応えとなった。
公-03	キラリ☆ふじみ狂言公演 万作の会	有料入場者率を高い割合で達成できたことが最も大きな成果である。来場者アンケート結果において、目標としていた観客満足度を上回る成果をあげた。また、リピーター率 46.6%（初めて 50.5%）と目標には届かなかったが、狂言の普及公演という「万作の会」と共有するコンセプトに照らせば、初めて狂言を鑑賞される方が半数を占めたことは成果である。
公-04	キラリ☆風流寄席	有料者含め入場者・率ともに目標値に届かなかった。シリーズ化し 22 回目の開催となり、観客層の高齢化が目立つが、近年連携している近隣の私立高校から 24 名の学生が鑑賞するようになっている状況を今後の観客層の活性化に活かしていく。
公-05	二兎社公演 49『狩場の悲劇』	有料入場者率を高い割合で達成できたことが最も大きな成果である。来場者アンケート結果において、目標としていた観客満足度を大きく上回る成果をあげた。また、新規来場者数は目標に僅かに届かなかったが、上演演目の内容によって観客層が変動するものと思われる。
公-06	劇場連携企画 vol.1　シアターブリック from デンマーク『わたしのねがい』×カンパニー・ソン・ドゥ・トワル from フランス『さあ！』2 二本立て公演	有料者含め入場者・率ともに目標値に届かなかった。劇場が連携して、デンマークとフランスのアーティストを招聘し、海外の質の高いパフォーマンスの鑑賞機会を提供したが、ツアースケジュールに当館の劇場スケジュールを踏まえて公演日を組み込む調整で苦慮した部分があり、公演に関連して行う交流企画等を十分な形で組み込めなかった点も集客に影響したものと思われる。
公-07	劇場連携企画 vol.2『小さな王子さま』	有料者含め入場者・率ともに、目標値に届かなかった。本公演は、青少年と劇場との出会いの場づくり促進といった当館と共通のビジョンを持つおやこ劇場（志木、朝霞、新座）との協働事業のひとつだが、今後の定例会議の場で課題を整理し継続して取り組んでいく。

※行が足りない場合は適宜追加してください。

（2）自己評価

評価項目①：創造性・企画性

（※1）…S～D で記入してください。

評価の観点	・（企画力）地域の状況と芸術性とのバランスが取れた、特色ある事業計画である。 ・（制作力）優れたアーティストやスタッフ等が才能や技能を発揮し、高い水準の作品制作や各種事業が行われている。 ・（発信力・影響力）圏域内外の実演芸術を牽引する成果が期待できる。 ・（レジデントカンパニー・アーティスト）当該劇場を創造拠点又は準拠点とする実演芸術団体やアーティストを擁する。	
	・自由設定の観点（任意）（※2）	

（※2）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

	評価指標（※3）	目標（値）（※4）	実績（値）
公演事業	①公演毎に来場者へのアンケート調査を実施し「満足度」評価をはかる。 ②当館と協働する、「小・中・高等学校教諭」、「おやこ劇場運営者」、市民で組織する「事業運営サポート委員」等の市民の協力者のモニタリング評価による、劇場プログラムへの評価をはかる。	①アンケート調査項目の 5 段階評価で上位 2 段階（「大変満足」「満足」）と回答した人が 70%以上となる公演が、調査 7 公演のうち 5 公演以上。 ②子どもや若い世代にむけた事業展開や公演毎に行う関連企画等の内容や方針に対して、概ね高評価を得る。	①（「大変満足」「満足」）と回答した人が 70%以上となる公演 調査 7 公演のうち 7 公演。 7 公演平均 79.9% ②青少年と劇場との出会いの場づくりに協働している、おやこ劇場（志木、朝霞、新座）の運営者と行う会議（7 回実施）、及び市民で構成される「事業運営サポート委員会」の会議（9 回実施）の場で、子どもや若い世代にむけた事業展開や公演毎に行う関連企画等の内容や方針について高い評価を得た。 〇おやこ劇場との会議開催日 4/13（日）、5/31（土）、6/22（日）、7/19（土）、8/30（土）、10/12（日）、11/29（土） 〇事業運営サポート委員会開催日 4/30（水）、5/28（水）、6/20（金）、7/16（水）、10/22（水）、11/19（水）、12/16（火）、2/16（月）、3/16（月）
人材養成事業			

普及啓発事業	①普及啓発事業に参画するアーティストの数	①宮内康乃芸術監督をはじめとする、30 名のアーティストが当館の普及啓発事業に参画する。	①宮内康乃芸術監督をはじめとする 62 名のアーティストが当館の普及啓発事業に参加した。 ○宮内康乃新芸術監督によるアーティスト・コレクティブの活動 （13 名） ○舞台芸術体験プログラム　アウトリーチ・ワークショップ （狂言 9 名、音楽 14 名） ○こどもステーション☆キラリ （3 名） ○きになる劇場、はじめの一歩 （4 名） ○サーカス・バザール （17 名） ○第 8 回　ふじみ大地の収穫祭 （2 名）
共生社会事業			

（※３）・（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

成果報告書　　富士見市民文化会館キラリふじみ

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、事業類型ごとに太枠内に自己評価を記入してください。

公演事業	
自己評価	①アンケート調査では 7 公演全てで 70%以上、平均すると 79.9%と高い評価が得られた。この 5 段階評価での満足度と併せて、アンケート内の自由筆記欄に記される鑑賞直後の観客の生の声は、館と観客との貴重な対話の機会となる。また施設に関する設問で多くの要望があった、メインホール女性トイレの洋式化に対応（令和 7 年度修繕実施）する等、様々な環境整備にも繋がる貴重な意見・情報収集の場でもある。 ②おやこ劇場との会議は、志木、朝霞、新座の各劇場の運営者約 10 名で構成され、当館の事業担当職員も参加して、「サーカス・バザール」でのワークショップ運営や、おやこ劇場例会公演（本年度は『小さな王子さま』）開催等の共同作業を通じて、コンスタントに意見を交換し、今後の事業の方針づくりに活かされている。事業運営サポート委員会は、現在 7 名の市民で構成され、当館館長が参加している。会議では、事業運営に関するヒヤリングや委員同士の意見交換を行い、次世代が生き生きと暮らせる、まちづくりの拠点施設としての、文化施設のあり方の指針づくりに役立てられている。

人材養成事業	
自己評価	

普及啓発事業	
自己評価	①当館の大規模改修工事に伴う全館休館期間（令和 8 年度）に行う、市内全域でのアウトリーチプログラムの実施を視野に入れ、まず就任初年度となる宮内康乃芸術監督の令和 7 年度の活動を、普及啓発事業に軸足を置いた内容とし、これにこれまでの当館のビジョンやミッションを共有する連携アーティストによるプログラムを加えた。本年度は当初の目標を大きく上回る総勢 62 名のアーティストが当館の普及啓発事業に参加をし、創造性豊かな様々なプログラムを提供した。

共生社会事業	
自己評価	

（２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

評価項目②：国際性（任意）

評価の観点	・(国際プレゼンスの向上) 海外の劇場やフェスティバル、実演芸術団体等と連携し、国際共同制作や海外作品の招聘等に取り組んでいる。 ・(国際交流) アーティストや文化芸術関係者の招聘等、人的交流や情報交換が行われている。 ・(新たな創客への取組) 在住外国人や訪日外国人に向けて文化芸術体験の機会を提供する等、グローバルな視座で創客に取り組んでいる。	
	・自由設定の観点（任意）（※２）	

（※２）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※３）	目標（値）（※４）	実績（値）
①座・高円寺（杉並区）と連携し、当館単独では持続することが難しい海外のアーティストの招聘公演を実施する。 ②地域の外国籍の方への生活支援を行う「ふじみ野国際交流センター」と連携し、日本に暮らす外国籍の方々が、当館の主催事業で文化芸術体験の機会に触れることで、日常生活のための視野や潜在的な感性を広げてもらう。	①『シアターブリック form デンマーク新作公演（仮題)』及び『小さな王子さま』（イタリア）の海外のアーティストによる 2 作品を上演する。 ②「ふじみ野国際交流センター」を通じて、地域で暮らす外国籍の方々20名に、公演事業の「ハーツウインズ・コンサート」、及び普及啓発事業の「サーカス・バザール」の 2 事業を文化芸術体験の入り口として鑑賞・体験してもらう。鑑賞の際には、基本的な鑑賞マナー等を事前に学習する機会等を設ける。	①シアターブリック from デンマーク『わたしのねがい』、カンパニー・ソン・ドゥ・トワル from フランス『さあ！』、『小さな王子さま』(イタリア)の海外のアーティストによる 3 作品を上演した。 ②以下の事業を「ふじみ野国際交流センター（以降、FICEC)」の関係者、センターに通う外国籍の子どもたちに鑑賞・体験をしてもらった。 ■サーカス・バザール メインホールでのサーカスショー 2025 年 7 月 12 日（土）/13 日（日） 計 16 名 ■シアターブリック from デンマーク『わたしのねがい』 2025 年 7 月 26 日（土）4 名 ■小さな王子さま 2025 年 9 月 23 日（火・祝）10 名 ■ハーツウインズ・コンサート 2025 年 10 月 5 日（日）6 名 ・鑑賞に際して、基本的な鑑賞マナー等を事前に学習する機会等を設けた。

（※３）・（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

成果報告書　　富士見市民文化会館キラリふじみ

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	①招聘元である、座・高円寺（杉並区）との綿密な連携により、当初の、海外のアーティストによる2作品（デンマーク・イタリア）にフランスを加え、3 ヵ国のアーティストの作品を上演することができた。「(1) 各公演事業の自己評価」の欄で述べたように、動員面が課題として残ったが、こうした連携による海外アーティストの招聘公演の取り組みは昨年から続くもので、全館休館となる令和8年度も市内公共施設に会場を移して連携を継続することが決まっている。そうした持続性も評価軸としながら今後も取り組んでいく。 ②日本に暮らす外国籍の方々が、当館の主催事業で文化芸術体験の機会に触れることで、日常生活のための視野や感性を広げてもらうことを目的に昨年度から連携を再びスタートさせた。昨年度に共有した、「FICEC に通う方にとっては、当館のような文化芸術施設は相当に敷居が高く、近隣の商業施設に行くことはあっても、キラリふじみに訪れることは無く、その存在すら認識が薄い様子がある。」という課題・現状を踏まえ、本年度も引き続き、台詞等の無い音楽やサーカス等のジャンルに気軽に参加・鑑賞してもらった。また、こうした連携と並行して、FICEC で行われている「日本語教室」や「こどもクラブ」等と、全館休館中の当館のアウトリーチプログラムがタイアップする新たな取り組みの協議を前進させることができた。

（2）自己評価

（※1）…S～D で記入すること。

評価項目③：地域文化拠点機能

評価の観点	・(文化拠点) 地域の特性やニーズを踏まえ、地域の文化資源を活用するなど、地域の文化拠点として事業が組み立てられている。 ・(地域連携) 地域の関係機関と連携・協力し、地域コミュニティの創生や社会課題の解決等に取り組んでいる。 ・(児童生徒への機会提供) 次代を担う子ども達を対象とした鑑賞や体験事業が行われている。	
	・ホール利用サービス（貸館事業）の向上（任意）（※2）	利用者との催事打合せの際に、劇場付き技術スタッフの役割りを説明し理解を得て、安全な貸館運営を行う。
	・自由設定の観点（任意）（※3）	

（※2）・（※3）…R7 年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※4）	目標（値）（※5）	実績（値）
①小・中・高等学校との連携した事業を充実させる。 ②「小中学校へのアウトリーチワークショップ」への参加生徒・児童、担当教諭へのアンケート調査を実施し、参加者の反応をはかる。 ③市内近隣の幼稚園、保育所、市内小・中・特別支援学校と連携した広報活動。 ④市内近隣の文化団体、伝統芸能継承・保存団体、農・商業者等と協働した事業を開催する。	①アウトリーチワークショップ、主催公演の団体鑑賞等で、小・中学校のべ 10 校、高等学校 1 校と連携する。 ②生徒・児童のアンケート回答者の 70%以上が、「また参加・体験したい」と回答。また、担当教諭が「アウトリーチプログラム」を取り入れる意義・現状の課題等について自由筆記により回答。 ③普及啓発事業の「サーカス・バザール」、「ふじみ大地の収穫祭」チラシを、市内近隣幼稚園・保育所 48 施設、市内小・中・特別支援学校 18 校へ配布。 ④「サーカス・バザール」、「ふじみ大地の収穫祭」を、文化 3 団体、伝統芸能継承・保存 5 団体、農・商業 18 団体の計 26 団体との協働で実施する。	①・「小中学校へのアウトリーチワークショップ」の実施…のべ 10 校と連携・『キラリふじみ狂言公演 万作の会』、『キラリ☆風流寄席』の当館主催公演を芸術体験学習として団体で鑑賞…高等学校 1 校と連携 ②生徒・児童のアンケート回答者の 84.7%が、「また参加・体験したい」と回答。また、のべ 25 名の担当教諭が「アウトリーチプログラム」を取り入れる意義・現状の課題等について自由筆記により回答。 ③市内近隣幼稚園・保育所 48 施設、市内小・中・特別支援学校 18 校へ配布し、来場・参加を促した。 ④「サーカス・バザール」、「ふじみ大地の収穫祭」を文化 3 団体、伝統芸能継承・保存 5 団体、農・商業 18 団体の計 26 団体との協働で実施した。

（※4）・（※5）…R7 年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	①当館の開館当初から継続している、小中学校と連携したアウトリーチプログラムの実施に加え、近年では、若手の落語家を主体に番組構成した『キラリ☆風流寄席』で、終演後に学生と落語家による交流の場を設け、そこで若い世代同士が出会い様々なものを交換する等の様々な機会により公立文化施設と学校教育機関の連携が深まり、発展を遂げている。本年度は、開演前に本番の舞台（高座）で、出演噺家が指導する「落語ワークショップ」を開催する等、地域の拠点としての機能を一層発揮できた。 ②アウトリーチで行った、実施のべ 10 校の児童へのアンケートは直筆によるものである。結果、総数 786 名の児童の感想を集めることができた。84.7%（666 名）の「また参加・体験したい」という結果に加え、直筆としたことで、児童の生の声・感情・温かみ等も読み手（アーティスト）に感じ取ってもらうことができた。 ③④「サーカス・バザール」は、幼少期や青少年期にむけた当館との出会いの機会となる入口事業として、開催を重ねるごとに家族連れや若い世代の来場が多くなり、早い時期から鑑賞や参加することの楽しさや市内の食や産業に関心や理解を深める貴重な契機となっており、地域振興に欠かせない事業として全市的に認知されている。市内の農業者や商業者と、「食と文化＝まちづくり」のコンセプトを共有して事業を協

	働している「ふじみ大地の収穫祭」は、毎年 11 月 23 日に「1123 いい富士見（ふじみ）の日」として富士見市商工会が主催する「ふじみマーケット」、隣接する大型商業施設「ららぽーと富士見」と商工会が共催する「賑わいづくりイベント」の 3 つのイベントと一体的に開催することで、地域資源を活かした文化振興とマーケットの活性化等の好循環が生まれている。

（2）自己評価

（※1）…S～D で記入すること。

評価項目④：多様性とアクセシビリティ

評価の観点	・(プログラムの多様さ）プログラムの種類や形態が多様で、幅広い観客や参加者に訴求する。 ・(参画者の多様さ）アーティストやスタッフとして参画する人々の属性（性別、年代、居住地、他）が多様である。 ・(アクセシビリティ）障がいの有無や年齢、性差、国籍、居住地、経済的状況等に関わらず、あらゆる人々と実演芸術をつなぐため、施設の構造・設備上の配慮、プログラム上の創意工夫やサポート、アウトリーチ等が行われている。	
	・自由設定の観点（任意）（※2）	

（※2）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※3）	目標（値）（※4）	実績（値）
①公演事業に高校生以下料金を設定し、若年層の来場者数の増加をはかる。 ②「視覚障害者にむけた舞台説明会」を組み込んだ公演事業を実施する。 ③アクセシビリティ研修を継続実施する。	①高校生以下料金での来場者 445 名 ②二兎社公演 49『永井愛新作公演（仮題)』では実演団体の「二兎社」と連携し、「視覚障害者にむけた舞台説明会」を行い、観客のうち 20 名が参加する。 ③職員研修を開催して、「障害者差別解消法（令和６年４月１日改正)」の内容を学び、実践に活かしていく。(令和６年度に続き実施する)	①高校生以下料金での来場者 357 名 ②実演団体と連携し『狩場の悲劇』及び『小さな王子さま』の２公演において「視覚障害者にむけた舞台説明会」「上演台本の事前貸出」、「赤外線補聴システム受信機貸出」の３つの鑑賞サポートを準備した。「赤外線補聴システム受信機貸出」のみの申込みとなったが、「視覚障害者にむけた舞台説明会」には、事業担当職員が研修として受講した。 ③事業担当職員むけの研修として、舞台芸術に関わりたい人のための研修プログラム「観劇サポート講座（聴覚障害者編・視覚障害者編)」を事業担当チーフが受講した。(2026.3.5-6 主催：公財としま未来文化財団)

（※3）・(※4）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	①幅広い世代の中でも、とりわけ若い世代の鑑賞・参加者の拡充にむけて、高校生以下 500 円の料金設定（2019 年～2023 年）や、市内外の各種団体と連携や協働した取り組みを持続的に行ってきた。 昨年度に当館の公演事業に訪れた高校生以下の観客 296 名のおよそ 150%の動員強化を目標としたが、結果 120%（357 名）となった。しかしこの中には、青少年と劇場との出会いの場づくり促進のため、おやこ劇場（志木、朝霞、新座）と協働した『小さな王子さま』(69 名)、当館からほど近い私立高校と連携し、当館主催公演を芸術体験学習として、団体鑑賞した、『キラリふじみ狂言公演 万作の会』(35 名)、『キラリ☆風流寄席』(31 名)、さらに、以前、吹奏楽クリニックを受講した、近隣の中学校吹奏楽部の生徒が鑑賞に訪れた、『ハーツウインズ・コンサート』(165 名）が含まれ、これまでの連携や協働した取組みが、持続的な成果として表れている。 ②③令和 3 年に改正された「障害者差別解消法」について令和 6 年度に職員研修の一環として学び、有意義な研修機会となったが、本年度はそうした学びの経験を活かして、視覚・聴覚に障害のある方にむけた「鑑賞サポート」の実施や研修により知見を深める年度とした。アクセスビリティへの取り組みの必要性を強く感じながらも十分ではない当館の現状を、まずは実演団体からの協力を得ながら実践を重ねることで見直していきたい。

（２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

評価項目⑤：自由設定（任意）

評価の観点	①　創造性・企画性、②国際性、③地域文化拠点機能、④多様性とアクセシビリティ、⑥運営体制と持続可能性　の項目では成果や課題に言及しきれない事柄について、自己評価を行ってください。（※２）
	・2002 年の開館から今日までの市民との協働による館運営の経験の蓄積を礎とした、これから 10 年先のキラリふじみの活動を支える当館の新たな市民サポーターによる協力・協働が見込める。

（※２）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※３）	目標（値）（※４）	実績（値）
①事業を通じて、若い世代の新たな市民サポーター・協力者を得ていく。	①普及啓発事業の「こどもステーション☆キラリ」において、同プログラム開催初期の参加者から３名が、新規アシスタントメンバーとして本事業に加わる。	①宮内康乃芸術監督が展開する新規事業を通じて、新たな参加者を一定数獲得することはできたが、本項目で設定し目標とした、新規のアシスタントメンバーの獲得には至らなかった。

（※３）・（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	普及啓発事業の「こどもステーション☆キラリ」は 2012 に開催し現在に至る。本事業をはじめとする当館のプログラムに参加してきた当時の子どもたちは、今は成人となり立派な成長を遂げている。中には、これまでの経験を活かし俳優業を志す者もいる。そうしたメンバーが当館の事業にアシスタントメンバーとして加わってもらえるように試みたが、学業やライフスタイル等との兼ね合いで、今回は実現に至らなかった。上記のような、時を重ねてひとが劇場に帰ってくる、そうした環境の循環や場のあり方は、開館当初から理想として取り組んできたことの一つであり、次年度以降も引き続き取り組んでいく。

（2）自己評価

その他：エピソードやグッドプラクティス事例について

助成対象事業に関連して、心に響くような印象的な出来事や、他館の参考になるような好事例があれば、具体的にご記入ください。
昨年度に連携を再始動させた FICEC との連携は平成 30 年度に遡る。市民が主体となり地域に様々なアートを届ける館付属のカンパニー「ACT-F」との交流イベントの実施や、FICEC 理事長や職員を招いて行う、日本に暮らす外国籍の方の暮らしの現状と課題等を伺う座談会等を通じて協働し、平成 31 年に当館がフィリピンの俳優人を招聘し、富士見市内での滞在制作をした際には、FICEC のメンバーとの交流企画を開催する等、劇場での国際交流企画を一挙に展開してきた。 令和 7 年度の助成対象事業を通じて特に印象的だった出来事は、この FICEC に通う外国籍市民との出会いや交流である。FICEC に通う様々な国籍の方が鑑賞・参加した助成対象事業の 4 つの公演のなかで、7 月の「サーカス・バザール」のサーカスショーの、コメディパフォーマーが絶妙に客席の観客に掛け合うシーンで、偶然にも FICEC から鑑賞に来ていた韓国人の新婚夫婦が舞台上に呼びこまれ、パフォーマーとの息の合ったダンス等で客席を大いに沸かせたこと、さらにその時の感想を、翌々週のシアターブリック from デンマーク『わたしのねがい』に来場の際に興奮気味に我々に語ってくれたことがとても印象に残っている。 こうした出来事や、またそれを共有できたことで、FICEC で行われている「日本語教室」や「こどもクラブ」等と、全館休館中の当館のアウトリーチプログラムがタイアップする新たな取り組みについて、効果的に協議を進めることが可能となった。

（2）自己評価

評価項目⑥：運営体制と持続可能性

（※1）・（※2）…R7年度評価補助シートから転記すること。

※太枠内に記入してください

○「実現性」の項目より〈(ア）～（エ)〉

評価の観点	（ア）多様な財源の確保 予算計画が妥当であり、事業収入のほか、各種助成金や寄附金・協賛金等の獲得に努めている。	（イ）広報・営業力 広報計画が充実しており、券売や集客、会員制度等の拡充に努めている。
現状（※1）	チケット収入及び施設利用料を主たる財源とし、外部の財源として、当助成金及び一般財団法人地域創造助成金を毎年獲得して事業を計画・実施している。	当館HP、SNS、事業情報誌HOTキラリ（市内全戸配布）を中心に、特にチケット収入増加を近年意識して取り組んでいる。
目標(値)（※2）	大規模改修工事に伴う全館休館となる令和8年度に市内全域で展開する「普及啓発プログラム」を実効的・効果的なものにし、「地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業（普及啓発事業)」に採択されること。	令和7年度は全館休館が入るため、チケット収入目標は8,380千円（財団令和7年度予算計上額）としているが、過去2年度に続くように収入増に取り組む。 令和6年度実績13,329千円 令和5年度実績10,147千円
実績(値)	劇場が地域に出向いて行う、芸術監督や連携アーティストが主導する普及啓発プログラムを計画し「地域の中核劇場･音楽堂等活性化事業（普及啓発事業)」に採択された。	令和7年度チケット収入合計 10,459千円であった。
団体の自己評価	全館休館中に行うアウトリーチプログラムという異例の取り組みに、芸術監督を中心に職員が一丸となって計画策定に取り組むことができた。助成事業には無事に採択され、事業実施が可能となったことはとても大きい。	通常は年度後半に実施する主要な公演事業を極力、全館休館前に実施する計画を立て、(1) 各公演事業の自己評価の欄で述べたように、複数の公演で有料入場者率が向上した等の理由で目標を大きく超えた。

評価の観点	（ウ）他館連携 他の劇場・音楽堂等との事業連携や協力・支援を通じて、効果的で効率的な事業運営を行っている。	（エ）設置者 円滑な事業の継続のため設置者と適切に意思疎通を図っており、設置者による人材や財源の確保等が期待できる。
現状（※1）	令和 5 年度は伊藤キム氏のソロダンス公演を「パティオ池鯉鮒」「宮古市民文化会館」「高知市文化プラザかるぽーと」連携して、各地でのツアー上演。令和 6 年度は、座・高円寺が主幹となり、デンマークから招聘する「TONE トーン」を、当館、茅ヶ崎市民文化会館、子どもと文化の NPO 子ども劇場西多摩と連携して上演	行政担当課からのモニタリング調査（月一回）に加え、行政担当部長を含む行政担当職員と理事長以下財団担当職員による連絡調整会議（年 4 回）を開催する中で、財団の事業計画や財政状況に理解が得られ、有効な意思疎通を図ることができている。
目標(値)（※2）	令和 7 年度は、座・高円寺が主幹となり、『シアターブリック form デンマーク新作公演（仮題)』及び『小さな王子さま』（イタリア）の海外のアーティストによる 2 作品を、当館、茅ヶ崎市民文化会館、子どもと文化の NPO 子ども劇場西多摩と連携して上演する。	現状維持につとめていく。
実績(値)	シアターブリック form デンマーク『わたしのねがい』及びカンパニー・ソン・ドゥ・トワル from フランス『さあ！』の海外のアーティストによる 2 作品を、座・高円寺（杉並区）が主幹となり、当館と茅ヶ崎市民文化会館の 3 館で連携して上演した。また、『小さな王子さま』（イタリア）の海外のアーティストによる作品を、座・高円寺（杉並区）と連携して上演した。	行政担当課からのモニタリング調査（月一回）に加え、行政担当部長を含む行政担当職員と理事長以下財団担当職員による連絡調整会議（年 4 回）を計画通り実施した。
団体の自己評価	この劇場連携企画は、昨年に続く取り組みであり、単館では困難な海外のアーティストによる公演を、こうした連携により、経費面だけでなくあらゆる制作面においても持続的に実施することが可能となる。全館休館となる令和 8 年度も市内公共施設に会場を移して連携を継続する。	令和 7 年度は指定管理第 4 期の最終年度であったが、館に精通している指定管理者として、行政及び工事施工業者との密な調整により工事の順調な進捗を期待されて令和 10 年度までの 3 年間の期間延長が決定される等、日頃から行政と適切な意思疎通を図ってきたことの成果が表れた。

○「持続可能性に関するチェックシート」より〈(オ) ～ (セ)〉

評価の観点	(オ) 芸術監督 芸術監督等、劇場運営の芸術面を統括する人材が配置されている。	(カ) 長期的経営 長期的視点に立ち、劇場運営を統括する、経営実務者が配置されている。
現状（※1）	平成 14 年の開館当初から芸術監督制（初代は平田オリザ氏）による開館運営を行い、令和 7 年 4 月に宮内康乃氏（作曲家・演出家）が第 5 代芸術監督に就任。	運営実務者は令和 4 年 4 月に館長に就任した矢野哲史である。事業チーフ時代の芸術監督と国内外のアーティストによるプロデュース公演や多様な市民と協働する事業を手掛けた経験を活かし、多様なアーティストと市民の出会いや交流を促進している。
目標(値)（※2）	宮内康乃新芸術監督の体制のもと、当館のミッション・ビジョンに基づいた、文化芸術活動を持続的に展開・発展させていく。	現状維持につとめていく。
実績(値)	芸術監督就任初年度の活動として、芸術監督企画舞台公演『ゆらぐ とよむ』、ワークショップ企画『わ・つむぎラボ』や『オトノマド』を中心に当館のミッション・ビジョンに基づいた事業を実施した。	現状のとおり、館長を中心とした劇場運営につとめた。
団体の自己評価	就任当初に、宮内康乃芸術監督と市民との出会い・対話の場として企画した「新芸術監督・宮内康乃とはじめまして！のおしゃべり会」をはじめ、新芸術監督の芸術方針に加え、その人間性にも触れられる機会を丁寧に組み込むことができた。	中でも今年度は、大規模改修工事による指定管理期間の延長に伴う事業計画作成と提案、また、それに伴う全館休館中に市内全域で行うアウトリーチプログラムのスケジュール調整等がポイントとなった。

評価の観点	(キ) 専門人材の確保 今日的な劇場運営に必要な職能や専門性を踏まえ、運営体制が整備されている。あるいは専門人材の確保や育成に努めている。	(ク) 職制の整理 芸術監督、館長、支配人、プロデューサー、その他管理職の職位及び職能、一般職員の職務内容等が専門性を基に整理され、役割分担されている。
現状（※1）	(ク) の欄に記載の専門的人材に加えて配置している「事業統括リーダー」は、当館の主催事業の運営を担う制作者として、不可欠なセクションとして機能している。	マネージャー、芸術監督、館長そして舞台技術者などの専門的人材を配置したうえ、館の貸館業務全般や教育機関や文化関係諸団体との共催事業などの業務を担う「管理担当」と、主催事業の企画・運営などの業務を担う「事業担当」との 2 担当制をとり、各担当の業務分担を明確にしている。
目標(値)（※2）	現状維持につとめるとともに、日々の実践のなかで、後継者育成にも取り組む。	現状維持につとめていく。
実績(値)	現状のとおり、事業統括リーダーが館の主催事業をトータルにマネジメントした。	現状を維持し「管理担当」「事業担当」の各部門の仕事の質の向上につとめた。
団体の自己評価	事業担当職員の制作者としての育成が急務となっている。	各部門の仕事の質の向上にあわせて、それぞれの連携に積極的に取り組んだ。

評価の観点	（ケ）世代間バランス 年齢バランスを考慮した人材確保を行っている（若年層の雇用に努めている）。	（コ）ジェンダーバランス 女性管理職比率が 30%以上である。あるいは、女性の管理職やリーダー職への登用に努めている。
現状（※1）	当館の経営に関わる正規職員の半数以上が40代を超え、ここ2〜3年で3名の定年退職を控えるなど財団全体の過渡期にある。令和2年度に3名、令和5年度に1名の若手職員を採用により、若手主体の館運営に徐々に移行している。	当館の女性管理職比率は 40%（男性管理職3名、女性管理職2名）である。
目標(値)（※2）	若手主体の館運営への移行に、引き続きつとめていく。	現状維持につとめていく。
実績(値)	令和8年4月新規採用職員3名を採用した。うち2名が新卒の若年層である。	現状維持につとめた。
団体の自己評価	ようやく新規採用職員をむかえることができたが、年齢バランスを考慮した人材確保は中長期の視点で取り組む課題と認識している。	人材の確保と併せて、引き続きつとめていく。

評価の観点	（サ）ワークライフ・バランス 仕事と育児･介護等の両立支援制度を整備し、推進している。	（シ）コンプライアンス順守 情報セキュリティをはじめ、各種コンプライアンスの順守規定を策定し、必要な研修を行っている。
現状（※1）	現在の状況として、産休･育休を取得し、令和5年度から職場復帰した職員 1 名が短時間勤務制度を利用して勤務にあたっている。	財団では、令和元年度に「情報セキュリティポリシー」を策定し、運用している。職員研修の一環として、情報セキュリティ研修を令和3年10月13日に実施した。
目標(値)（※2）	制度の周知につとめる。	現状維持につとめていく。
実績(値)	現状維持につとめた。	現状維持につとめた。
団体の自己評価	人材の確保と併せて、引き続きつとめていく。	引き続きつとめていく。

評価の観点	（ス）ハラスメント防止対策 職場内及び創作現場におけるパワー・ハラスメント、セクシュアル・ハラスメント等防止のための指針等を策定・周知し、必要な研修を行っている。	（セ）適正な契約事務 アーティストやスタッフと適正な契約書を交わしている。
現状（※1）	職員研修の一環として、ハラスメント研修（令和6年2月）、接遇・クレーム対応研修（令和7年3月）に実施した。	財団内での決裁（金額及び契約内容等）を経て、アーティストやスタッフと適正な契約書を交わしている。
目標(値)（※2）	令和 7 年度は同様の研修を計画・実施することで現状維持につとめていく。	現状維持につとめていく。
実績(値)	職員研修の一環として、外部講師を招き①接遇・クレーム研修（令和 8 年 2 月/20 名参加）を実施した。また、市が開催する②人権啓発研修会（令和 8 年 3 月/館長が参加）に参加した。	現状維持につとめた。
団体の自己評価	職員研修の中でも、とりわけ接遇及びハラスメントの防止に関するものに重点を置いて取り組んだ。接遇・クレーム研修では、近年社会問題化している「カスタマーハラスメント」に範囲を広げ学習することができた。	引き続きつとめていく。

（3）総評

※太枠内に記入してください。

団体の自己評価
当館のビジョン＝「ジャンルや垣根を越えて、アーティストと市民、市民同士が出会い、繋がり、互いの多様性を涵養する開かれた場づくりの実現」にむけた、公演 7 事業、普及啓発 6 事業の計画に対し、本年度も無事に採択され、継続して事業に取り組むことができたことを大切な成果として再認識した。令和 7 年度は「新たな芸術監督の活動初年度（任期 4 年）のスタート」そして「令和 7 年 12 月からの大規模改修工事による全館休館」等、異例の中での事業運営だったが、そうした状況にも対応しながら、当館のビジョン実現にむけて、①連携アーティストとの創造活動と多様な鑑賞・体験機会の創出、②新たな芸術監督と始動する、次世代へと続くアーティスト・コレクティブの活動、③劇場・音楽堂の連携による国際交流事業、④地域コミュニティの醸成を図るための交流事業の 4 つの事業のカテゴリーを、「鑑賞」「体験・交流」「育成」「支援」の事業運営方針に基づき、中長期的な視点をもって持続的に事業を展開し、概ね当初の目的を達成することができた。 当館では、2002 年の開館から今日まで、歴代の芸術監督が「創造性・企画性」豊かな活動の主軸を担い、市民の鑑賞・参加・体験に様々なアプローチを行ってきた。本成果報告でフォーカスされている、国際性、地域文化拠点、多様性、アクセシビリティの各項目への取組みは、第 2 次富士見市文化芸術振興基本計画（令和 6 年度～13 年度）の中で当館が行政から期待されている項目に重なる。 現在は、令和 8 年度の全館休館中のアウトリーチプログラムから、リニューアルオープン以降の活動までの 3 カ年の計画づくりを宮内康乃芸術監督とともにすすめている。こうした中長期の事業方針や企画のコンセプトづくりにこれらの項目にも力点を置きながら、文化芸術振興を通じたまちづくりを牽引する当館の役割りを着実に果たしていきたい。

備考